

創価大学

[SOKA UNIVERSITY]

社会の変化に対応した 学部・学科編成で 「自分」「人」「社会」に 貢献する人材を育成



理工学部には“生命の価値”を追求する生命理工学科が新たに開設される

創立以来、「学生第一」の理念のもと、「世界市民」の育成に取り組んできた創価大学。その教育の本質は「人間力」の醸成にある。一方で、社会や時代の変化に対応し、そのニーズに対応した教育を提供し続けていることも大きな特徴だ。今も創価大学は改革の真っただ中にある。2026年4月に予定されている学部・学科再編を中心に、学長、教授陣に話を聞いた。

取材・文／伊藤敬太郎 撮影／鈴木友樹(P5学長写真)

4つの実践項目を掲げ 全学的な改革を推進

創価大学は、2021年に策定した10年計画「Soka University Grand Design 2021-2030」(図1)に基づき、全学的な改革に取り組んでいる。大きな実践項目は、「教育」「研究」「SDGs」「ダイバーシティ」の4つ。この枠組みの中で、具体的にどのような改革が行われる

のか。鈴木将史学長に話を聞いた。

「実践項目ごとに具体的な目標を掲げています。SDGsに関しては、カーボンニュートラルな社会、キャンパスの実現がその一つ。八王子市など地域とも連携して取り組みを進めています。ダイバーシティに関しては、国際交流をさらに活性化させることが目標です。現在69カ国・地域の263大学と協定を結び、本学の学生の海外留学、海外の留学生



鈴木将史学長

の受け入れを共に積極的に進めています」

そして、残る実践項目の「教育」「研究」に関しては、2026年4月、注目すべき学部・学科再編が行われる(再編の全体像はP8に掲載)。

再編の柱の一つは、経済学部と経営学部の統合

による「経済経営学部ビジネス学科」の新設。もう一つは、理工学部共生創造理工学科の「グリーンテクノロジー学科」「生命理工学科」への拡充だ。

「本学が社会とどう向き合っているのかを明らかにして、世の中への貢献性を前面に打ち出して再編に取り組みました。そこで重視したのが、実践力の養成です。また、「わかりやすさ」も重視したポイントです。教育学部の教育学科には、公認心理師対応のカリキュラムが設けられているのですが、現名称ではそこが伝わらないので、心理・教育学科とします。また、法学部の法律学科では、政治や政策についても学べるので、それが伝わりやすいよう法律政治学科とします」

図1 グランドデザイン 2021-2030



図2 ピアサポートの軸となる「CSS」と「RSS」



社会の変化に対応した改革に取り組む一方、創価大学の教育には変わらぬ特色もある。多面的な先輩とのつながりによる“ピアサポート”がその一つだ。

キャリア教育をサポートするCSSと就活をサポートするRSS(図2)、留学経験者によるワールド会など、多様な上級生の組織が後輩に自分の経験を踏まえたアドバイスを提供し、相談に乗る。そのほか、寮生活やクラブ活動などでも先輩と後輩のつながりは濃密だ。

「CSSにしてもRSSにしても、後輩のために動くことに喜びを見出し、自分たちのあり方に誇りをもっています。本学の教育は他者にどれだけ貢献できるかを大切にしており、まさにそれを実践しているのが学生たちなのです。先輩が

熱心に自分に関わってくれた経験があるから、後輩も“次は自分が”という意識をもって後輩のサポートに取り組んでくれるのです」

**理論と実践を組み合わせた
経済経営学部ビジネス学科**

次に、前述の経済経営学部と理工学部の再編の詳細を見ていきたい。

現経済学部長の西浦昭雄副学長は、新たに生まれる経済経営学部の特徴として、「ビジネスに強い」「理論と実践の相乗効果」の2つを挙げる。

「先の見えないVUCA時代の課題解決には、理論と実践が融合した複合的なアプローチが求められます。例えば世界の貧困問題を考える際、経済構造や

国際協力など経済学の理論的な視点と、BOPビジネス、CSR、ソーシャルビジネスといった個々の企業活動に関わる経営学の実践的な視点の双方を兼ね備えていることが強みになります」

創価大学の特徴である、自他共の幸福を目指す「人間主義」も新学部のキーワードの一つだ。それが色濃く反映されているのが、1年次～2年次春学期に設けられている、ワークショップ授業(実践体験型PBL授業)中心の「ヒューマニスティック・リーダーシップ・プログラム(HLP)」だ。ここで一人ひとりの個性を活かし、他者に配慮できる人間主義的リーダーシップの土台を作るという。

2年次の秋学期からは、学生それぞれの目標に応じた3つの学修コース(グローバルリーダー/ビジネスデザイン/金融・財務プロフェッショナル)を用意。さらに、それぞれの学修コースの学びを深める科目群(モジュール)と、社会課題などをテーマとしたコース横断型の科目群を設け、学生は両方の科目群から一つずつ、自分の関心に合った科目群を選択できる(図3)。

「自分が社会のどのような課題に貢献したいかという出口を見据えて、実践を意識した学びを積み重ねられるようなカリキュラムを設計しています。このような教育を通して、先の見えない世界を

図3 経済経営学部ビジネス学科の学修コースと科目群



経済学部と経営学部が統合したことにより、科目の選択幅が増えることも学生にとって大きなメリット



経済学部では学术英語、経営学部ではビジネス英語が中心だったが、新学部では好きなほうを選択できる



理工学部は、情報システム工学科、グリーンテクノロジー学科、生命理工学科の3学科体制に

図4 グリーンテクノロジー学科の専門応用科目の科目群

陸圏グリーンテクノロジー科目群	生物圏グリーンテクノロジー科目群
「持続的生産工学」「農地工学実習」などの科目を通して、土壌や植物など陸地に関する領域について学ぶ。	「環境微生物学」「プランクトン工学実験」などの科目を通して、微生物やプランクトン、生物の反応などについて学ぶ。
大気水圏グリーンテクノロジー科目群	グリーンテクノロジーの社会実装科目群
「気候変動科学論」「地球化学実験」などの科目を通して、気候や地球の生態系、水や海洋に関する領域について学ぶ。	ビジネス分野、国際協力分野の2分野を設け、ビジネス、マーケティング、知的財産など、技術をビジネスや社会に展開するための知識を学ぶ。

リードするレジリエントな価値創造人材の育成を目指しています」

続いて、理工学部で新たに設置されるグリーンテクノロジー学科と生命理工学科についてみていきたい。理工学部の黒沢則夫学部長はこの学科再編のねらいを次のように語る。

「地球規模の環境問題や急速な技術革新により社会が大きく変化するなかで、持続可能な社会の実現に向けて理学・工学分野が果たす役割はますます重要になっています。こうした社会のニーズに応じて、理学・工学の基礎知識を超えた応用力や実践力を備えた専門家を育成するため、専門領域をより明確化した2学科を新たに設けました」

グリーンテクノロジー学科は、さまざまな環境問題の解決に取り組む人材を育成する学科、生命理工学科は、生命科学の研究を通して医療や介護、健

康に貢献する人材を育成する学科だ。

文理融合教育に取り組む グリーンテクノロジー学科

それぞれの学科の特徴は何か。図4はグリーンテクノロジー学科の専門応用科目の科目群。環境分野を分類した3つの科目群と共に設けられている右下の「グリーンテクノロジーの社会実装科目群」は、国際ビジネスや国際法など文系の科目について学ぶ科目群だ。この文理融合教育が、新たに設けられた特色の一つだ。

創価大学は、エチオピアのタナ湖で過剰繁茂する水草の管理と有効利用プロセスの開発に取り組むSATREPS-EARTH（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）という共同研究プロジェクトに参加している。この研究成果は、学科の教育に反映されると

同時に、学生が現場でプロジェクトに関わるチャンスもあるという。

「また、海外からの留学生も1割程度受け入れ、海外研修の機会もこれまで以上に提供します。環境問題に関して国際的な舞台上で活躍したい高校生にもぜひ来てもらいたいです」

最先端の研究領域「糖鎖」が 学べる生命理工学科

一方、生命理工学科の強みの一つが、第3の生命鎖「糖鎖」（左下コラム参照）について深く学べることだ。創価大学は、2021年に創価大学糖鎖生命システム融合研究所（GaLSIC）を設立。他大学・研究機関と連携して糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点（J-GlycoNet）を形成し、共同研究を推進している。

「糖鎖に関しては、本学は国内でも最先端の研究に取り組んでいると自負しています。今後数年の間に、社会的にも大きく注目される研究領域で、糖鎖研究からノーベル賞が出るだろうともいわれています。ぜひ、高校生にも関心をもってもらいたいですね」

そのほかのカリキュラムの特色としては、生物学をより幅広く学べるようになったことに加え、1年次から研究室に配属され研究活動を経験できる「生命理工学部プロジェクト」を配置。また、理科の教員を目指すこともできる。

これらの新学部・学科にも表れているように、“何のために学ぶのか”を意識しながら実践力を養い、社会に貢献できる人材を育成するのが創価大学の教育。「自ら価値を生み出せる人になりたい」という高校生は要注目だ。

COLUMN

生命科学の注目の研究領域「糖鎖」とは？

糖鎖はゲノムDNA（核酸）やタンパク質と同様にすべての生物がもっている高分子物質。しかし、その役割はDNAやタンパク質ほど解明されていない。「この先DNAやタンパク質をいくら研究しても解明できなかったことが糖鎖の研究によって明らかになるというのが、今の生命科学の研究者の共通認識です」（黒沢学部長）

DNAやタンパク質にはほぼ個人差がない。しかし、特定のウイルスに感染しやすい人とならない人がいるように個

人差は存在する。この個人差を決めているのが糖鎖。その仕組みに関する研究は、近い将来のオーダーメイド医療などにつながるものと期待されている。

